

坂戸市立三芳野小学校学校だより

## 若葉



みよしのたのむの雁もひたぶるに  
君が方によると鳴くなる  
わが方によると鳴くなるみよしの  
たのむの雁をいつか忘れむ(「伊勢物語」)

のびのびと生きる子…みんなと仲良くする子、よろこんで学ぶ子、しんけんに体をきたえる子  
目指す学校像 ○一人ひとりが学校・地域を愛し、より良い自分をめざし、力を発揮する。  
○一人ひとりが仲間から必要とされ、互いの良さを認め合う。

### 《読書について》

「万巻の書を読むに非ざるよりは、いづくんぞ千秋の人たるを得ん。

一己の労を軽んずるに非ざるよりは、いづくんぞ兆民の安きを致すを得ん。」

上の言葉は、幕末の私塾、松下村塾の床の間に掲げられていた言葉です。この言葉が意味するところは、以下ようになります。

「多くの書物を読まずに、どうして将来語り継がれるような人になり得るだろうか。

自分の苦勞をいとう者に、どうして人々の安らかな生活を築くことができようか。」

10月は、読書月刊です。本校では、図書委員会を中心に読書調査などいくつかの取組を行います。また、低学年を中心に読書の時間を設け、学校図書館を計画的に利用しています。本校の学校図書館は、読書活動支援員である原島さんが図書館廊下の掲示物でおすすめの本などを上手に紹介しています。また、給食時の校内放送を利用して、全校児童に語り掛けるようにわかりやすく面白そうな本を上手に紹介していただいています。

さて、私が教室訪問をさせているとき、学校図書館で子供たちが真剣に本を読んでいる姿をしばしば見かけます。しかしながら、一瞬ですが、子供たちが読んでいる本から何年生なのかわからないことがあります。つまり、本の内容から「絵本を読んでいる子が多いから1年生だ。」とか「分厚い小説を読んでいるから高学年だ。」と判断ができないのです。押並べて、絵本や挿絵が多い本、漫画による解説ものを読んでいる子供たちが多いためです。私自身、それらの本を否定する意図は全くありません。

ただ、いつもとは少し違う分野の本に挑戦したり、いつもとは少し難しそうな本にも挑戦してほしいと思います。学校図書館の本は先生方や読書支援員さんが子供たち読んでほしい本がそろっています。読書の秋、面白そうな本を是非、手に取ってほしいものです。

### 《校務支援員の募集について》

坂戸市内の小・中学校（若宮中・城山中を除く）では、校務支援員を募集しています。職務内容等は以下のとおりです。興味のある方は、連絡してみてください。

職務内容：教員の事務補助、プリント等の印刷・配布、児童の健康管理上の補助等

勤務日数：原則週3日（冬季・春季休業期間中を除く）

勤務時間：1日6時間勤務

給 与：時給986円から

問い合わせ：坂戸市教育委員会学校教育課

電話番号：049-283-1331（内線577）